

9月13日 soul mate

今日はタマサートの学生とチャイワン先生とバンジャムルンに行った。朝から土砂降りだったが APTU (faculty of Architecture & Planning in Thamasaat University) に7時集合を守ってタクシーで行った。…にもかかわらずタマサートのみんなは遅れてきて朝飯を食べていた。そして、7時というのはあくまで集合時間で出発はもうすこし後だったことを察知した。7時30分ごろに APTU を出発し、バスの車内ではタイのお菓子やタイ語での自己紹介レクチャーを受けたりした。「よろしくおねがいます」が「インディーティダルチャクラップ」と発音するのだが、なかなか難しかった。タイには日本兵とタイ人女性の悲しい恋物語が有る。名前を「クーカン」といい、タイで最も有名で何度もリメイクされるドラマ(映画)の一つだそう。タイには歌手育成番組が多いらしく3つ4つくらい有るそう。そのおかげでタイには歌手が溢れているらしい。日本でもケミストリーがそのようなオーディション番組から出てきているが、彼ら去年活動を休止している。ケミストリー以降もオーディション番組はいくつかあったが、タイほど頻繁に行われてはいない。日本の番組では「のど自慢」がアマチュアの歌番組として有る。しかしこれはあくまでアマチュアであってプロを輩出するためのものではない。思うに、歌がうまいから歌手になる、という選択肢は日本においては有効ではなくなっているのかもしれない。現在オリコンで一位をとるのは必ずしも歌の上手い歌手とは限らない。人気さえあれば「歌手」として稼ぐことができる。歌が上手くても日の目を見ない人は多い。そのような場合、プロでなく、活動範囲は狭くともアマチュアで歌を披露するという選択肢も人々の頭にのぼりやすくなるのだろうと思う。

バンジャムルンには12時ごろに着いて昼ご飯を食べた。その後バンジャムルンの地図を作る班とバンジャムルンのコミュニティセンターのミニチュアを作る班に分かれた。ぼくはミニチュアの中に置く木を作るのを手伝った。緑のキルトみたいなやつを瞬間接着剤を使って丸くして樹の葉っぱと枝の部分に見立て、それに小さい木の枝を刺すことで小さな木に見立てる。意外と簡単だがうまく作るのが難しい。丸める際に潰してしまい、樹が広がってふわふわした感じを出すのが難しい。お菓子を食べたり話をしたりしながら作った。その中で僕と nutter という男子学生が soul-mate だということはいじられた。僕は初め「魂の友」と訳して考え自分と nutter は soul-mate だと言った。だが、それを言うと笑われたのでよくよく辞書で調べてみた。”soul mate”…《特に異性の》心の友；愛人、情夫、情婦。・・・なるほど後者もあるのか。まあ以前に pang という女子学生のスリッパに犬の糞が付いたときに後処理をすこし手伝った時も soul mate と言っていたので前者の意味でも使うのだろう。

その後夕食を食べて、タマサートの学生の作業とは離れて怒田のムービーづくりをした。バンジャムルンの人々にもわかるようにタイ語の字幕を入れたかったのでタマサートの学生の aor さんと、pang さん、eve さんに手伝ってもらった。字幕入れがやっと終わり、ムービーもほぼ完成した。